

淑徳大学

アーカイブズ・ニュース

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

第 11 号 平成 27 年 (2015) 9 月 15 日発行



— 更科総合グラウンドの建設 (昭和 59 年 11 月) —

開学当初のグラウンド (現中庭) が手狭であったため、かねてより同窓会や協賛会から広いグラウンド建設の要望が出されていたが、開学 20 周年の記念事業として更科総合グラウンドが建設された。グラウンドには野球場や陸上競技場、ラグビー・サッカーの練習場、シャワー室などを備えた管理棟が設けられ、体育祭などもこのグラウンドで開催された。

学祖・長谷川良信と社会事業の先覚者たち I

— 留岡幸助と家庭学校 —

淑徳大学アーカイブズ

長谷川 匡俊

(1)

本学創立 50 周年、学祖 50 回忌の記念すべき年でもあるので、今号から何回かに分けて、学祖にとって関わりの深い社会事業の先覚者を取り上げて紹介したい。なお敬称はすべて省略する。

長谷川は晩年、自ら経営する大乘淑徳学園の機関誌『大乘淑徳タイムス』（旧称「マハヤナ・シュクトクタイムス」以下、「タイムス」と略称する）に毎号筆を執り、折々の所感を披瀝している。その中には往年、社会事業の第一線で活躍していたころの斯界の先達や同志・友人たちを懐かしんで文章に記しているものもあり、今となれば、長谷川の斯界における人脈やその位置をうかがう上で貴重な情報を提供してくれている（なお本文は『長谷川良信全集』第 3 巻に収載）。

手始めに、「家庭学校今昔」と題する一文（「タイムス」5 号、1959.12. 10）から取り上げてみよう。家庭学校（1899 年巣鴨村に設立）といえ、我が国の近代感化教育史上に名高い施設で、その創設者・留岡幸助（1864－1934）は「近代慈善の祖」ともいべき日本社会福祉史上の巨人である。

この「家庭学校今昔」（以下、「今昔」と略す）の一文はいろいろな意味で重要な内容を含んでいるので、以下に本文を紹介しながら話を進めてゆきたい。

家庭学校六十周年祭として、お招きを浙け、高井戸の校舎を十数年ぶりに訪ねた。錦秋既にして去って武蔵野嵐漸瀝たる霜月初冬の日である。此処は往年永く巣鴨に在って滝乃川学園と共に我がマハヤナの師匠分であった。然しマハヤナの成立は寧ろ偶発的であって先輩の指示でもなく、自分の計画的意図でもなかったし、近くに日本社会事業の二大先覚がいることなどそれほど深く意識しなかったが、その後マハヤナも隣保事業として旗幟を鮮明にするに至って強く両先覚の偉業を認識し、また感じとることが出来たのであった。（p102）

ここに出てくるように、家庭学校が杉並区高井戸の現在地に移転したのは、1935（昭和 10）年 11 月のことで、第二次世界大戦後の 48 年には、児童福祉法施行により養護施設（現・児童養護施設）となり、52 年には名称も「東京家庭学校」と改称している。60 周年記念祭が行われたのは 59 年 11 月のことで、招かれて長谷川は十数年ぶりに訪問した。そして改めて、マハヤナ学園草創のころに思いを馳せ、家庭学校と創設者留岡幸助との出会いに話は及ぶのであった。

私事にわたるが、筆者が生まれた場所（1943 年 2 月）は、この西巣鴨の都電「庚申塚駅」付近のマハヤナ学園別館で、本館は現・淑徳巣鴨中学高等学校の裏手、同校小体育館がある辺りに所在した。小学生のころ、かつての家庭学校の跡地に建てられ、戦災で廃墟と化した「癌研究会」の研究所と附属病院は、子供たちの間で「ガンケンには幽霊が出る」とのうわさが立ち、また、そう遠くもなかったのも、肝試しの格好の場所として、恐る恐る足を踏み入れたものである。

ちなみに、上記の「日本社会事業の二大先覚」とは、留岡と滝乃川学園の創始者・石井亮一（1867－1937。「知的障害者教育・福祉の父」）を指している。留岡は長谷川より 26 歳上、石井は 23 歳上であるから、い



ずれも親子ほどの年齢差であった。

然し当時の留岡先生については、先生は仏教排撃の張本人であり狸親父であるとの先入観が入っていたので、社会事業界の先輩として教えを仰ごうとか、親しみなどという気持ちはなく、従って家庭学校は敵国の法城として、その前を通るときは襟を正さねばならぬと思うていた。ところが、近くにいるので、生徒が時々洗濯物の御用聞きに来たり、如才のない鶴見先生の話の聞いたり、又社会事業の会合などでは、小塩副校長や篠崎教頭の言説に親しみ、又時々王子電車で、留岡先生に乗り合わせると、先生は例の磊落な調子で話しかけてくれる。そこでいつとなく意業地な自分の気持ちも段々にほどけて「この親父、さすがに話せる親父だなア」と思うようになり、それから先生主宰の「人道」を読んだり、沢山の先生の著述を読むようになって、先生がただのクリスチャンでなくて、驚くべき国土肌のクリスチャンであるのに感服してしまった。(p102-3)

というのである。ここには、キリスト教主義の家庭学校や留岡に対する当初の長谷川の偏見が、しだいにほぐれてゆく経過とその理由が描かれている。とりわけ、留岡の人間的な魅力とその器の大きさ、クリスチャンではあるが、長谷川と同じ「国土肌」の人物であることへの共感といった点に着目しておこう。そして長谷川はすっかり留岡に傾倒してゆくのであった。このあと「今昔」によれば、海外留学から帰国後、大正末から昭和初頭にかけて民間社会事業の進展のために、長谷川は同志と共に連盟運動(私設社会事業の組織化)に邁進するが、この間終始自分をバックアップしてくれたのは「留岡翁であり有馬翁であった」という(有馬翁とは、監獄改良や少年釈放者保護に貢献した有馬四郎助(1864-1934))。また家庭学校は「巢鴨の同郷」ということから、校長はじめ教師の方々とも親交を重ねていたことや、二代目の校長牧野虎次への敬慕の念、式典における講演で牧野が語った留岡翁のエピソードに感銘を深くしている。そして最後にこう結んでいる。

留岡先生逝いて既に三十年に近く、先生傘下の諸領袖、概ね梢を離れて往時茫々肅索極まりないものがあるが、現校長今井君は是れまた襟度広開、闊達自在で留岡先生に酷似した風格の持主。先生後ありの感を深からしめ、業界万人から愛敬されている。依って以って家庭学校が人間教育の道場として、永く校祖の遺鉢を継ぎ道統を維持昂揚されるのを見るのは、私にとって限りない悦びであり、林間に酒を暖めて微吟長嘯するの想いであった。(p104)

このとき長谷川は満 69 歳であり、留岡が亡くなった歳とほぼ同じだ。敬愛した留岡を偲びつつ、その遺訓が家庭学校に脈々と受け継がれていることに、同じ民間社会事業家として感慨を深くしている。

(2)

以上は、「今昔」に記された第二次世界大戦後の長谷川の追憶を手掛かりにしたものだが、つぎに、留岡側の資料から、さしあたり『留岡幸助著作集』(同志社大学人文科学研究所編、同朋舎出版発行、1980-1981)に収められている二つの記事を取り上げてみよう。

一つは、留岡が行った「社会教化事業」と題する講演(「内務省主催社会事業講習会講演集」大正 11.5.2)からである。このなかで留岡は「社会教化事業」を積極的方面と消極的方面との二つに分け、前者 14 事業のうちの 5 番目に「ソーシャル・セツツルメント」を紹介しているが、そこに長谷川良信が登場する。前段で、昔は大学の学生なり教授が貧民窟へ住居して、その社会教化の一切の事業をしていたので、ユニヴァルシチー・セツツルメント、又はユニヴァルシチー・エツクステンションと言って、「大学殖民事業」と訳したが、今日では大学の拡張事業と大学の殖民事業の二つを「ソーシャル・セツツルメント(社会殖民事業)」と称しているという。そして英国のバーネットやトインビー・ホールにも触れ、やがてこうした事業がアメリカやドイツ、その他の国々にも広がっていったとしたうえで、次のような紹介が目される。

日本では従来斯る事業をやって居る人は誰もありませんでしたが、一两年前から神戸で労働問題に就て熱心に努力して居る賀川豊彦君が、新川部落と云ふ貧民部落に這入ってソーシャル・セツツルメントをや

って居ります。それから東京では長谷川良信と云ふ浄土宗の坊さんが小石川区の外れの貧民窟に於て、社会改良の爲めに之に類した仕事をやって段々成功して居ります。（『留岡幸助著作集』第四巻、p171）留岡によると、「ソーシャル・セツルメント」（以下「セツルメント」と称す）は欧米では盛んになっているものの、日本では最近までほとんど見られなかったという。そうした中で、1,2年前から初めて登場したのが神戸新川の貧民窟における賀川豊彦の活動であり、東京の「小石川区の外れ」（西巢鴨の辺りを指しているのだが、留岡の記憶違いかもしれない）の貧民窟における長谷川良信の活動であると、この二事例を特筆している。長谷川を「浄土宗の坊さん」と紹介しているところがおもしろい。大都市スラムにおける草創期セツルメントの担い手について、当時、「西の賀川豊彦、東の長谷川良信」あるいは「キリスト教の賀川、仏教の長谷川」と称されたというのも肯ける話である。なお、大正11（1922）年5月が、留岡の本講演の実施期日か講演集の発行期日かは定かでないが、すでに同年3月、長谷川は海外留学のために日本を発っている。帰国後から留岡との関わりが深くなるのは先述の通りだが、それ以前にある程度の交流があつてこそ、留岡も上記のような紹介が可能となつたはずである。

ついでながら、留岡は7番目に「コミュニティー・センター（社会中心制度）」をあげて、「是は学校・寺院・教会を中心としての社会改良事業で、外国では盛んにやって居ります」と述べ、学校の事例はあげているものの、寺院を中心とした社会改良については、「是は私寡聞にして日本では良い例を持って居りませぬが、西洋ではなかなか盛んにやって居ります」と言つてもいる。また、かつて宗教家が社会改良の事業をしていると、「宗教家の墮落」と言われていた状況が変化してきたことを、自らの体験からも裏付けし、「宗教家が人の靈魂を救ふことを抛つて、社会事業に従事することは本末を誤つて居るが、宗教を基にして立つて居る人は矢張り説教などを基にして、さうして余力を以て社会教化の爲に尽力すべきであらうと思ふ」と語っている。その後、寺院を中心とするものではないが、「近来は仏教徒の中に社会改良に骨を折る人が現れ」とし、以下のように記している。

殊に東京辺では基督教よりも仏教徒の方で旺にやって居ります。例へば渡辺海旭などといふ浄土宗の坊さんが、独逸に留学して研究を積んで帰朝して、東京で熾に活動しております。斯いふ人が近来は段々に殖へて来ました。（同上書、p174）

そして、このような学校・寺院・教会によるコミュニティー・センター事業への期待を述べている。長谷川の恩師・渡辺海旭に言及しているのも、渡辺の活動が注目に値するからであろう。

二つ目は、前掲『留岡幸助著作集』第五巻の「留岡幸助書簡（受信）」に、昭和5年6月5日付の長谷川良信からの書簡が一点掲載されている（p371-2）。これは『人道』296号（昭和5.6.15）に載つたものである。本文は、「私の久しき御無沙汰を御詫び申し上げます」にはじまり、ロンドンの軍縮会議の応援に行ったこと、そのついでに、英、仏、独、伊、瑞西、米国等の社会事業、教育、宗教、新聞事業を見学して多くを学んだこと、5月31日帰国、留守中、皇太后陛下より自身の事業に恩賜を拝戴し、感激と共に明日への奉仕に思いをめぐらしていることなどが記され、「相識る親愛なる貴下と共に、爾今更に一段の健闘を誓ふものであります。敬白」で終っている。なお、長谷川がロンドン軍縮会議の応援に特派されたのは、兄の善治が社長を務める「萬朝報」の主筆としてであつた。この一文は長谷川から留岡への近況報告ともいふべきものであつて、『人道』誌に寄せられている点が興味を引く。既述のように、長谷川が民間社会事業の組織化に尽力していた頃の書簡で、先の「今昔」の記事と合わせ読むとき、長谷川の留岡への尊敬と信頼の情が伝わって来よう。留岡幸助はこの4年後に死去している。

淑徳大学創立 50 周年記念シリーズ企画 3

淑徳大学創立 50 周年・学祖長谷川良信先生 50 回忌記念

「淑徳大学 50 年のあゆみ展」開催

淑徳大学は本年創立 50 周年を迎えました。また、本年は学祖・長谷川良信先生 50 回忌の年にもあたります。4 年制大学としての淑徳大学の創建は学祖の宿願でしたが、開学以来 50 年にわたってわが国の社会福祉の発展に寄与してきた本学の足跡をあらためて検証し、建学の精神をふまえてさらに今後の本学の進むべき道について思いを致すため、本学千葉キャンパス淑水記念館の 4 階で学祖の生涯に関する展示を行い、また 3 階では淑徳大学の 50 年のあゆみに関する展示を開催することとしました。

社会福祉に対する関心が今日ほど社会的に高まってなかった 1965 年（昭和 40）、本学は時代を先取りする形で社会福祉学部社会福祉学科の単学部単学科大学として開学しました。本学は、建学の精神である大乘仏教の「利他共生」の理念に基づき、「together with him（彼と共に）」の実践を通じて理想社会の建設と真実な人間の形成をめざし、時代の要請に応じて国際コミュニケーション学部、看護栄養学部、コミュニティ政策学部、教育学部、経営学部、人文学部を順次開設してきましたが、これらはいずれも建学の精神に基づき、学祖の提唱する「宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発・社会開発」を具現するものといえます。本学のこれまでのあゆみは、まさに仏教者として社会福祉と教育に生涯を捧げた学祖の思いを基礎として展開してきたのです。

以上のような本学の開学以来の展開をふまえ、3 階の展示では全体を

- 「第 1 章 草創期の淑徳大学（1965 年～1968 年）」
- 「第 2 章 教育改革と揺れるキャンパス（1969 年～1979 年）」
- 「第 3 章 教育環境の一新と教学の新展開（1980 年～1995 年）」
- 「第 4 章 利他共生の高度化と国際化から大学改革の萌芽へ（1996 年～2002 年）」
- 「第 5 章 大学改革と新学部のさらなる展開（2003 年～2011 年）」
- 「第 6 章 21 世紀の教育ニーズに応える（2012 年～2015 年）」

の 6 章に分け、それぞれの時代のなかで特筆すべき事項を 3～6 項目選び、関連写真をパネルにして掲示しています。

この他に 3 階の会場では、卒業生の方から淑徳大学アーカイブズにご寄贈いただいた資料の展示も行っています。当時着用していた学生服や学生帽、大学の徽章類、学生が作成した印刷物、さらに学祖長谷川良信先生の自筆原稿など興味深い資料が展示されていますので、ぜひご覧下さい。また映像コーナーを設置して、「学祖長谷川良信先生の生涯」と「淑徳大学 50 年のあゆみ」という 2 つの動画を常時上映しています。なお、本展示は埼玉キャンパス（1 号館 1 階、映像コーナーは図書館）と東京キャンパス（4・5 号館 2 階）においても、規模を縮小して写真パネルのみという形で開催しています。

本学の開学以来のあゆみをじっくりとご覧いただければ幸いです。



会 期：平成 27 年 7 月 9 日～平成 27 年 12 月 25 日
会 場：淑徳大学千葉キャンパス淑水記念館 3 階・4 階
埼玉キャンパス 1 号館 1 階・図書館
東京キャンパス 4・5 号館 2 階

開催時間：10 時～16 時

問合せ先：淑徳大学アーカイブズ TEL 043 (265) 7526

e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp



淑水記念館 3 階の「淑徳大学 50 年のあゆみ展」会場風景



映像コーナー



現物資料の展示



埼玉キャンパスの展示会場



東京キャンパスの展示会場

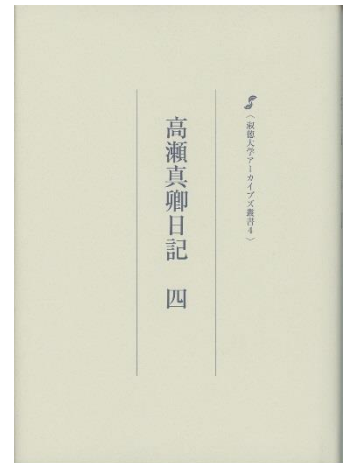
『高瀬真卿日記 四』（淑徳大学アーカイブズ叢書4）刊行のお知らせ

淑徳大学アーカイブズ叢書4として、本年3月に『高瀬真卿日記 四』を刊行しました。

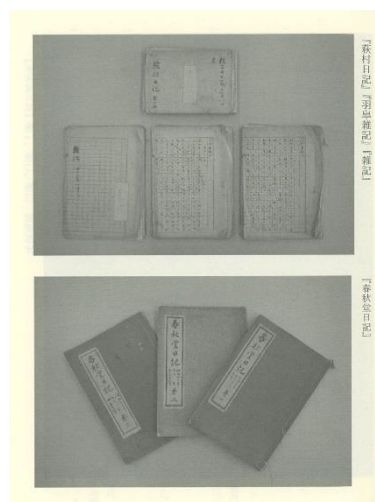
本巻には明治37年（1904）11月から大正4年（1915）12月までの約16年間の高瀬真卿の日記「萩村日記」第十五、（1904年～1905年）「羽阜雑記（雑記）」（1907年～1910年）「春秋堂日記」巻一～巻三（1912年～1915年）の7冊を収録しました。

東京感化院は明治40年2月、静岡県田方郡錦田村（現静岡県三島市）に静岡分院・家庭農業苑を開設しますが、同45年に高瀬は感化事業から撤退、東京感化院は日蓮宗宗務院総監佐野前励師に譲渡されました。

高瀬はまた明治43年に『刀剣と歴史』を刊行し、同45年に刀剣保存会を設立するなど、本巻の時期は東京感化院、高瀬ともに重要な転機の時期に当たっています。



- 発行日 2015年3月20日
- 価格 本体3,000円＋消費税
- 取扱い 株式会社ディーエスサービス
〒174-8645
東京都板橋区前野町5-5-2
大乘淑徳学園法人本部ビル内
TEL 03(5392)0081
- 問合せ 淑徳大学アーカイブズ



「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」のご案内

—参加者を募集しています—

淑徳大学アーカイブズでは、地域との連携を図り、地元の方々との交流を深めるため、「史料講読会」を開催しています。当アーカイブズが所蔵している史料をはじめとして、江戸時代から近代にいたる史料を幅広く読みながら、当時の社会や地域について学んでいこうと思っています。

会は毎月第2・第4金曜日の午前10時から午後3時頃まで、淑水記念館で開催しています。どなたでも参加できますし、その日の都合に合わせて途中から参加いただくこともできます。初心者の方も大歓迎ですので、くずし字が読めるようになりたい方や昔のことに興味のある方はぜひ当アーカイブズまでご連絡下さい。

皆さんで楽しく史料を読んでいければと思います。

淑徳大学アーカイブズ日誌 (2015年1月～7月)

- 1月6日 法政大学通信教育課程の学生吉田久一文庫『保健婦手帳』閲覧。
- 1月9日 第77回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 1月15日 『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第10号発行。
- 1月22日 第93回全国大学史資料協議会東日本部会研究会参加（於神奈川大学）。
- 1月23日 第78回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 1月23日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 1月26日 科研の作業でマハヤナ学園所蔵資料のチェック作業。
- 1月26日 2014年度第2回淑徳大学アーカイブズ運営委員会開催（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 2月5日 高瀬真卿関係資料写真撮影のため業者へ引き渡し。
- 2月9日 大学50年史編集専門委員の打合せ（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 2月10日 千葉県立中央図書館で大学50年史の資料調査。
- 2月12日 関東近世史研究会評議員例会の打合せ（於カフェルノアール・ニュー八重洲北口店）。
- 2月13日 第79回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 2月19日 千葉日報記者「鶉の森の記憶展」取材のため来室。
- 2月19日 デイ倶楽部きら星一行12名「鶉の森の記憶展」・福祉機器展見学。
- 2月21日 『千葉日報』web版に「鶉の森の記憶展」の紹介記事掲載。
- 2月22日 『千葉日報』に「鶉の森の記憶展」の紹介記事掲載。
- 2月25日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 2月25日 大学創立50周年記念展の映像作製の打合せ（長谷川仏教文化研究所会議室）。
- 2月27日 第80回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 3月2日 大学50年史編集専門委員の打合せ（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 3月3日 大学創立50周年記念展の映像作製の打合せ（淑水記念館・同窓会サロン）。
- 3月5日 誉田町の河野和祥氏より「千葉市大巖寺町の鶉の森」の16ミリフィルムとDVD寄贈。
- 3月7日 科研報告書作成の打合せ（墨田区西光寺）。

- 3月13日 第81回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 3月17日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 3月18日 吉田すみ氏より旧吉田久一氏所蔵山岡鉄舟の掛け軸等3点寄贈。
- 3月20日 淑徳大学アーカイブズ叢書3『高瀬真卿日記 四』刊行。
- 3月26日 50周年記念展用の動画「学祖長谷川良信の生涯」納品。
- 3月26日 「鶉の森の記憶展」で借用した資料を千葉市立大森小学校に返却。
- 3月27日 第82回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 3月27日 「鶉の森の記憶展」で借用した資料を千葉市立郷土博物館に返却。
- 3月31日 科研報告書納品。
- 3月31日 50年史の資料編について業者と打合せ（於千葉キャンパス）。
- 4月8日 『千葉日報』に掲載する記事の取材で淑徳大学学生来室。
- 4月9日 里見達人大乗淑徳学園常務理事より『淑徳九十年誌』寄贈。
- 4月9日 淑徳巣鴨高校より「マッカーサー司令部指令書綴」と長谷川良信先生直筆の卒業式挨拶草案寄贈。
- 4月10日 第83回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 4月16日 淑徳大学創立50周年・学祖50回忌記念事業打合せ（於千葉キャンパス）。
- 4月16日 淑徳大学50周年記念展打合せ（於千葉キャンパス）。
- 4月16日 法政大学通信教育課程の学生2名吉田久一文庫閲覧のため来室。
- 4月22日 法政大学通信教育課程の学生吉田久一文庫閲覧のため来室。
- 4月24日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 4月24日 第84回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 4月24日 総合福祉学部結城康博教授ゼミの1年生展示見学。
- 4月26日 日本アーカイブズ学会2015年度大会参加（於東京大学小島ホール）。
- 4月27日 大学50年史編集専門委員の打合せ（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 4月30日 淑徳大学50周年記念展打合せ（於千葉キャンパス）。
- 5月8日 第85回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 5月9日～10日 第43回社会事業史学会大会参加（於愛知県立大学）。
- 5月11日 本部秘書室より「法然上人800年大遠忌法要」のDVD寄贈。
- 5月13日 淑徳大学50周年記念展打合せ（於クレイ）
- 5月21日 卒業生の湯浅道夫氏より「出発点」（コピー）寄贈。
- 5月22日 第86回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 5月22日 大学50年史について業者と打合せ（於千葉キャンパス）。
- 5月22日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 5月26日 大学50年史編集専門委員の打合せ（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 6月1日 50年のあゆみ展業者東京キャンパス・埼玉キャンパス会場視察。
- 6月3日 全国大学史資料協議会東日本部会2015年度総会参加（於早稲田大学早稲田キャンパス）。
- 6月4日 大学50年史について業者と打合せ（於千葉キャンパス）。
- 6月4日 50年のあゆみ展について業者と打合せ（於千葉キャンパス）。
- 6月8日 大学50年史の原稿チェック作業のため金子保編集専門委員来室。
- 6月10日 50年のあゆみ展業者千葉キャンパス会場視察。
- 6月11日 50年のあゆみ展業者埼玉キャンパス会場視察。

- 6月12日 第87回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 6月12日 『together』掲載用の50年のあゆみ展の案内原稿を入稿。
- 6月12日 大学50年史の原稿作成のためエクステンションセンターの岡本勝人氏来室。関連資料を閲覧。
- 6月13日 50年史の原稿チェック作業のため金子保編集専門委員来室。
- 6月15日 大学50年史編集専門委員の打合せ（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 6月17日 淑徳大学エクステンションセンターより『淑徳アカデミア』第7号寄贈。
- 6月20日 第1回淑徳大学自校教育研究会出席（於淑徳与野中高等学校）。
- 6月26日 第88回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 7月7日 淑徳大学50年のあゆみ展千葉キャンパス設営。
- 7月7日 大学50年史編集専門委員の打合せ（於大乘淑徳学園本部理事長室）。
- 7月8日 第2回淑徳大学自校教育研究会出席（於池袋サテライトキャンパス）。
- 7月8日 淑徳大学50年のあゆみ展埼玉キャンパス・東京キャンパス設営。
- 7月8日 50年史の原稿チェック作業のため金子保編集専門委員来室。
- 7月9日 淑徳大学50年のあゆみ展開催。
- 7月10日 第89回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 7月17日 大学50年史について業者と打合せ（於千葉キャンパス）。
- 7月18日 千葉・関東地域社会福祉史研究会第10回（2015年度）総会・研究会参加（研究会は関東近世史研究会と合同開催）（於東京大学史料編纂所中会議室）。

淑徳大学アーカイブズでは、大学及び大乘淑徳学園に関係する資料を広く収集しています。

- ①大学及び学園が発行した新聞・雑誌・広報誌・年報・報告書等。
- ②学生時代の写真・講義ノート・教科書・手帳・日記・記念品・記事・各種書類等。
- ③学生時代に使用していたもの。
- ④大学及び学園のサークルや研究会の活動を示すもの。

上記以外の物でも結構ですので、お気づきのものがあればお気軽にご連絡下さい。

また、大学及び学園の各部署や学部学科、機関で保存期間の満了した文書、あるいは廃棄の対象となる文書が発生した場合は、大学アーカイブズまでご一報下さい。



淑徳大学

アーカイブズ・ニュース 第11号

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

発行日 2015年9月15日

編集・発行 淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701

千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7526（直通）

e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp

